

# へきけんニュース

ホームページ [https://www.hokkyodai.ac.jp/edu\\_center\\_remoteplace/](https://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/)メールアドレス [kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp](mailto:kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp)

☎ 0154-44-3291 FAX 0154-44-3292



背景は北海道教育大学旭川校

## 独立行政法人教職員支援機構の へき地教育動画ビデオに協力しました

### 北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター

独立行政法人教職員支援機構（以下、教職員支援機構）は、文部科学省の外郭団体で、全国の教員研修の中核的な機関として、様々な中央研修事業を実施しています。この教職員支援機構から北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センターにへき地研修動画の作成依頼がありました。近年は、全国的に過疎化・小規模校化が進み、全国的にへき地教育への関心が高まっています。北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センターとしては、へき地校の教員を支援し、研修ビデオの普及に協力する必要があるため、全面的に協力することとしました。そのため、へき地教育のビデオを収録し、オンデマンドで研修講座を実施しました。

へき地教育研修ビデオは、教職員支援機構公式サイト内の「動画教材」から、9月27日より視聴できます。



▲教職員支援機構公式サイトより

【独立行政法人教職員支援機構公式サイト】 <https://www.nits.go.jp/materials/intramural/>

# 鹿児島県総合教育センターの研修講座で 川前副センター長が講師を依頼されました

北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター

令和4年8月23日（火）14：40-16：40までの2時間枠で、鹿児島県総合教育センターの依頼により、川前副センター長が研修講師を担当しました。

鹿児島県とは、昨年度来、徳之島町をはじめ、複式校の先生方にもお世話になっております。また、過去には鹿児島大学附属小学校複式学級の授業研究会にも何度も参加し複式指導方法についても学ばせていただいている都府県の一つです。そのさらに前には、鹿児島大学を始め、長崎大学や琉球大学とも島嶼教育研究で共同研究もさせていただき、北海道教育大学関係者の多くは鹿児島の実践から学んできたところです。今回の研修講座では、“令和時代のへき地・小規模校教育を考える”と題し、少人数指導の良さを、その時代時代にみられた指導を俯瞰しながら、これからの時代に何を紡いでいくかを考える観点を提示しました。



◀ 研修講座のスライドより

研修講座では、下記的话题を柱として進めました。

## 研修講座内容

はじめに —日本の小規模校化と北海道の複式教育の現状—

1. へき地教育のパラダイム転換が求められる背景
2. 海外とのへき地教育研究から【アラスカ編】
3. へき地・複式・小規模校教育の転換と教育の原点
4. へき地の三特性と複式・少人数指導の工夫
5. 少人数教育から未来の教育をデザインする

おわりに —日本の複式教育指導技術がラオスへ—

## 研修講座をとおして

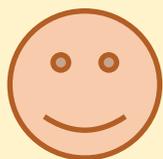
研修講座では全国的な学校の小規模化が進む現状をとらえ、へき地教育にあった従来の価値観の転換が今だからこそ求められている背景を演習にて思考する時間を設けました。どんな地域でもどんな学校規模でも、目の前にいる児童生徒の実態に応じた少人数指導のあり方についてとらえました。

次に、海外のへき地教育実践を本学が特に1990年代から継続的に研究交流を続けているアラスカ大学のへき地小規模校実践について紹介しました。私たちは日本の教育を当然のように享受してきていますが、他国の実践を見聞することは、日本の教育のありようを客体化し、その教育的な価値を再検討する契機につながります。

日本では、GIGAスクールの推進、ICT利活用による個別最適化教育や協働的な学びの工夫も各地域で実践されてきています。その新たな教育指導の先端を進む一方で、当センターが取り組んできた日本の複式教育指導技術が訪日研修や現地での研修を通じてラオスへ伝承された実践をご紹介しました。複式学級が日本だけではなく他国にも存在し、2個学年あるいは3個学年の学級編制も多くある中で、現地のへき地複式校の教師らが複式学級運営の改善課題に研修を通じて熱心に取り組んでいる様子も紹介しました。

研修講座の事後アンケートをここにご紹介します。

### 事後アンケートより一例



複式学習がこれからも続いていくという話や大規模な学校でも活かせることがあるという話を伺って、ますます指導法の確立や子ども達のガイド学習を推進していこうという気持ちになりました。



何より『令和の日本型学校教育』にもあるように、これから求められる資質・能力の基礎になるものだと改めて感じました。南の奄美も北の北海道も、そしてアラスカやラオスも土地は離れていても教育の根源は同じなんだと感じました。また、2学期からプラス思考で教育に取り組みたいと思います。



研修講座を実施する川前副センター長

本紙ではごく一部をご紹介しているに過ぎませんが、へき地教育研究では、かつてからご縁ある鹿児島県の先生方と交流させていただけたことは大学にとっても有意義な時間となりました。

## 全国都道府県のへき地教育研修講座 に協力しています

北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター

### 全国都道府県へき地教育研修講座に協力します！

現在北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センターでは、全国的にへき地教育研修を拡張するため、全国の教育研究センター等のへき地教育研修講座に協力し、研修講師等を派遣しています。これまで北海道のほか、青森県・岩手県・秋田県・山形県・岐阜県・山口県・高知県・鹿児島県から研修依頼が来ています。

北海道は、北海道教育委員会とへき地・小規模校教育研究センターが共催で、毎年へき地教育指導力向上講座を開設しています。

### オンデマンド研修講座も開設していきます！

また、今後3年間をめどに、へき地・小規模校教育研究センターのセンター員や全国の共同研究員を中心として、へき地教育ビデオを作成し、オンデマンド講座をアップしていく予定です。